

ウインドヒルくしろスーパーアリーナ（湿原の風アリーナ釧路）

クライミングウォール利用登録検定会のご案内

1. はじめに（施設利用に関する重要事項）

当クライミングウォールは、常勤の管理者を配置していない施設です。また、運営を行うクライミングウォール運営委員会および当施設は、利用中に発生した事故について責任を負いません。

クライミングは命に関わる危険を伴うスポーツです。当施設では、オウンリスク（自己責任の原則）をご理解・ご了承いただいたうえで、利用者ご自身および同伴者の安全管理を行っていただくことを利用条件としています。

このため、当施設では クライミング・ビレイ・施設利用に関する安全管理技術を習得し、利用登録検定に合格された方のみに「クライミングウォール利用登録証」を発行しています。

本案内は、検定会の内容および施設利用に必要な基本事項をまとめたものです。受検前に必ず内容をご確認ください。

2. 利用登録検定会の概要

クライミングおよびトップロープ設定の審査を行った後、ビレイ審査を実施します。採点は「利用者登録検定要領」に基づき、減点方式で行います。

ミス1回につき1ポイント減点とし、クライミング・ビレイの合計減点が5ポイント以内の場合、合格となります。

検定では、以下の点を中心に安全確認を行います。

- ・クライミング時の基本技術および安全確認
- ・トップロープ設定
- ・ビレイ操作・墜落時の制動
- ・適切な声かけ（コール）と意思疎通

※ハーネスやロープの装着不備、重大な安全違反があった場合は、その時点で不合格となります。

※詳細な審査項目・減点基準は、検定当日に検定員より説明します。

3. 検定会当日に持参するもの

チューブ型ビレイデバイス（ATC 等）

※オートロック、セミオートロック機能付きビレイデバイスは使用不可

安全環付きカラビナ

クライミングハーネス

30m 以上のシングルロープ

クイックドロー

クライミング専用シューズ

ビレイ用シューズ（運動靴等）

※スリッパ・裸足不可

ビレイ用革製グローブ

※ホームセンター等で購入できる薄手のもので可

チョークバッグ

以上の装備は必ず各自でご用意ください。当施設のレンタル用品は初心者向け体験用です。 検定会当日の貸し出しへは行っておりません。

4. 注意事項

- ・本案内は、当施設における検定会および利用方法を示したものです。
- ・本資料に従った場合でも、事故の可能性を完全に防ぐことはできません。
- ・施設運営指針をご確認いただき、安全に留意してご利用ください。

湿原の風アリーナ釧路・クライミングウォール利用者登録検定要領

2023年12月5日

クライミングウォール運営委員会

● 検定要領

検定員は下記の検定基準に従って採点を行う。

1. 採点は減点制とし、ミスのあるつど1点ずつ減点する。
2. クライミング・ビレイ合わせて減点ポイントが合計5ポイント以内ならば合格とする。
3. 但し、正確にハーネスを装備・正確なエイトノットでのハーネスとの連結・正確なビレイデバイスの装着ができない場合はその時点で検定終了とする。またクライミングに危険を感じた場合・ビレイで制動手がロープから離れた場合もその時点で終了させる。

● 検定基準

クライミング

1. 正確にハーネスを装備しロープをエイトノットでハーネスに結びつける。この際、末端処理もきちんととする。靴はクライミング専用のものを使用する。
2. 適切に必要なコールを行いながらリードクライミングを開始する。
3. 適正なクリップを行う。
 - ①安定した姿勢でクリップをしながらリードクライミングを行う。
 - ②逆クリップ、Zクリップに注意しクリップする。
 - ③Zクリップした際は安全にZクリップ解除を行う。
 - ④終了点でクイックドロー2か所を互い違いにクリップする。
4. 終了点でトップロープの設定をする。
 - ①離脱防止用のセルフビレイを手持ちのクイックドローを使い、壁側のロープに取る。
 - ②プロテクションのクイックドローを外しながらロワーダウンする。
 - ③トップロープのクライマー側をエイトノットで処理し、末端処理する。

ビレイ

1. 適正にハーネス・ビレイデバイスを装着する。ビレイに適した靴を使用する。
2. 相互にロープ・ハーネス・ビレイデバイスのチェックを行う。
3. 適正なスポットを行う。スポット姿勢の時点から制動側ロープを保持し、ファーストクリップ後も制動手を離さず速やかにビレイを開始する。
4. チューブ型ビレイデバイスを使用して適正にロープ操作を行う。
5. クリップの際、スムーズにロープを繰り出す。
6. クライミング時ロープは適正な張りをキープする。
7. クリップを失敗した際には速やかにロープを適正な張りに復する。
8. Zクリップした際は必要なコールを行いながら安全なZクリップ解除を進める。
9. 墜落時、適度な制動をかけて墜落を止める。
10. 墜落停止後もクライマーの要請に応じてきちんとロープコントロールを行う。
11. ロワーダウンの際、適正な位置で状況に合わせたスピードでクライマーを下降させる。

○補助資料 クライミングに関する技術

- ・ 安全にリードクライミングを完了できるかを審査します。
- ・ ハーネスやロープの装着間違いがある場合は、その場で不合格となります
- ・ 制限時間内に登れない場合や、クリップ飛ばし・検定員の指示に従えない・その他特別な問題のある場合も検定不合格となります。

1<正しくハーネスを装着しているか>

- ハーネスのねじれがないか確認すること。ウエストベルトは骨盤より上の位置で、しっかりと締めること。

2<正確なエイトノットでロープを結んでいるか>

- ハーネスのタイインループ2か所を通し、ダブルエイトノットで結ぶこと。

3<末端処理はされているか>

- 止め結びを行い、ロープの末端を10cm程度残すこと。

ビレイループに結んだ場合や、結びが不完全な場合は減点対象とする。

4<クライミング中、必要に応じて適切なコールがされているか>

- 声を掛け合いながら、ハーネスやロープ等のダブルチェックを行うこと。
- テンション、ロワーダウン等は、必要に応じて明確にコールすること。
- セルフビレイ設置・解除時も必要に応じて適切なコールをすること。

コールは大きな声で行う。ビレイヤーと意思の疎通が取れないと減点とする。

コールしたテンションやセルフ以外での墜落、ハングドックは減点対象とする。

5<逆クリップ・Zクリップ>

- グラウンドフォールの危険があるため、必ず掛け直すこと。

6<Zクリップ後に、安全な処理が行われたか>

- ロングフォールにならないよう、下側クイックドローを掛け直すこと。

7<終了点で正確なクリップがされているか>

- 終了点の2枚のカラビナが互い違いになるようロープをクリップすること。

○補助資料　トップロープ設定に関する技術

- ・ 安全にトップロープの設定を完了できるかを審査します。
- ・ 終了点 2 枚 → 終了点・環付き合計 2 枚 → 環付き 2 枚の順に掛け替えを行う。

8<トップロープ設定の際、安全を確保しているか>

- クイックドローでセルフビレイを取り、最低 2 か所で安全確保をすること。「テンション」「セルフを取りました」「ゆるめてください」「張ってください」「セルフ解除」「降ろしてください」など、簡潔に指示を出して安全を確保すること。

設定作業時のコールがビレイヤーに伝わらない場合は、減点対象とする。

9<トップロープの設定は正確か>

- 終了点に設置済みの環付きカラビナ 2 枚を互い違いに使用すること。

10<安全にクイックドローをはずしながら下降しているか>

- 壁のクイックドローからロープを取り外す。
- 「止めてください」「ストップ」「降ろしてください」「ダウント」など、適切なコールを行いながら下降すること。

壁側のセルフビレイを取り外し、離脱防止のために壁側のロープへと掛けなおす。クイックドローを外し忘れた場合は、随時減点対象とする。

11<トップロープの末端処理（エイトノットは正確か）>

- トップロープのクライマー側をダブルエイトノットで結ぶこと。

12<末端処理は行われているか>

- 止め結びを行い、ロープの末端を 10cm 程度残すこと。

<当施設のトップロープの設定・利用法について>

- ・ リードクライミングと同様に、直接結んでのトップロープ利用が一般的ですが、体験会などではエイトノットに安全環付きカラビナ 2 枚を互い違いに用いてハーネスと連結しております。検定では、今後のトップロープ利用を想定し、末端処理が問題なく行えるかを審査します。
- ・ 垂壁では、トップロープバーに設置された設定用ロープを利用できます。

○補助資料 ビレイに関する技術

- ・ クライマーを安全にビレイできるかを審査します。
- ・ ハーネス等の装着に不備がある場合は、即時検定不合格となります。
- ・ クライマー側のロープを両手で握ってしまった場合、制動側ロープから手を放した場合、その他特別な問題がある場合も検定不合格となります。

13<ビレイデバイスを正しく装着しているか>

- 器具を正しく装着し、ロープがロック可能な状態であるかを確認する。

ビレイデバイスからロープが抜けたり、カラビナのゲートが開いた場合は減点対象とする。

14<適切に必要なコールはされているか>

- クライマーと声を掛け合いながら、毎回確実にダブルチェックを行うこと。
- クライマーの要求に応じてロープ操作を行った際は、必ずコールを返すこと。
- 逆クリップ、Zクリップ、ロープの足絡み、クリップ忘れ等について、必要なコールを行うこと。

Zクリップを見逃し、クライマーが登れなくなった場合は減点対象とする。

15<適正にスポットしているか>

- スポット開始時点から、制動側ロープを保持する。
- 頭部・背中の着地による損傷を防ぐため、安全に着地できるように誘導する。
- クライマーの下敷きにならないよう、極端に近づかない位置でスポットする。
- 左右にクライマーが移動してもスポットが外れないよう追従すること。

手を開くと突き指をしやすくなるため、指は閉じ、手のひらで受け止めること。

クリップ完了前に自己判断でスポットを中断した場合、減点対象とする。

16<ファーストクリップ後速やかにビレイを開始しているか>

- クリップした後、速やかにスポット体勢からビレイに移行すること。
- 登り始めはグラウンドフォールを防ぐため、ロープを張り気味に操作する。

ビレイ開始が遅れた場合は減点対象とする。

地上に片足でも接触した場合、グラウンドフォールとして扱い、減点とする。

17<ビレイの位置は適正か>

- 壁の中心から約 1m 離れた位置で壁に近づき、ビレイを開始する。
- クライマーとぶつかる・ロープが引っかかる事の無いよう、しゃがむもしくは腰を落とした体勢でビレイし、状況に合わせて左右に移動する。
- 3クリップ完了後は、適正位置でビレイを行う。
- ロープが足に絡まないように、立ち位置・ロープの位置を調整しておくこと。

3クリップ以降は、壁の中心から 2m 以内の距離でビレイすること。

適正位置よりも後ろに下がり過ぎたままビレイを続けると減点となる。

ロープバーンを起こしたり・衝突してしまう位置にいると減点となる。

※ しゃがみビレイ

しゃがみこんだビレイは、とっさの時に大きく動けないので最近のビレイ技術では非推奨な動作となっています。ただし、立っているとグラウンドフォールの可能性がある 1~2 ピンでの不意落ち・ランナウト・クライマーが重い状況などでは、動ける体勢を維持しながらしゃがみましょう。相手が重い場合には 4 クリップ以降に適正位置に移動しましょう。

18<ビレイデバイスの操作は正確か> (右利きの場合)

- 左手はビレイデバイス直近で壁側ロープを保持し、右手はビレイデバイス直下約 20cm で、手を筒状にして握る。
- 制動側のロープを絶対に離さないように操作する。
- 右手がロープから離れそうな場合、左手で持ち替えて安全を確保する。

右手の握りが開いている場合や、指でつまんだ状態の場合は、隨時減点とする。

デバイスより上に制動側の手が上がり続けていた場合も、隨時減点とする。

左手だけで両側のロープを握る「グリップビレイ状態」は即時不合格となる。

19<クリップの際のロープの繰り出しは適正か>

- 3クリップ完了までは、立ち上がり動作などと組み合わせて素早く繰り出す。
- 3クリップ以降は前に動きながら繰り出し、引っかかる事のないようにする。
- クライマーの手元の動きなどから次の動作を予測してロープを繰り出す。
- ロープを繰り出した後も、次の繰り出し、制動等に備える。

繰り出しが足りず、クリップ動作が阻害されると、隨時減点とする。

20<ロープは適正な張りを保っているか>

- クライマーとクイックドローの位置を把握して、適度な張りをキープする。
- 3クリップまではタイトに保つ。中間部・上部では、段階的に適切なロープの余裕を作る。

たるみ過ぎたり、クライマーが登れない程に張ってしまうと、随時減点とする。

21<クリップ失敗後ロープは適正な張りに復しているか>

- 落としたロープがたるむので、速やかに適正な張りに戻す。
- 手での操作だけでは遅くなるので、後方への移動も合わせて調整する。
- たぐり落ちや再度のクリップに対応できるよう、クライマーから目を離さないこと。

ロープがたるんでいる状態が続くと減点対象とする。

22<墜落時正確に制動しているか>

- 墜落の際、クライマーと地面等との空間を保ち衝突させない。
- 安定した姿勢で制動側のロープを握れば制動できるため、絶対に放さないこと。
- 逆手でロープを保持すると力が入らず危険なので、順手で制動する。

制動側のロープから手を離した、両手でクライマー側のロープをつかんでしまった場合、その時点で検定不合格となるので、特に注意すること。

23<制動時ビレイヤーは危険な状態にないか>

- ビレイデバイスに手を挟まないよう、「基本位置」を守って操作する。
- 墜落時、転倒したり壁に衝突しない位置・体勢でビレイする。

24<クライマーの要請に応じロープがコントロールされているか>

- テンションコール、その他のコールにも素早く対応する。
- たるみがあるとロープ操作が遅れるので、適切な張りでビレイすること。

※墜落後の補助

「ロープを掴んで登ります」もしくは「ゴボウします」とコールがあったら、ロープを引いてクライマーが登る手伝いをしましょう。

壁付近にいれば、体重を利用して引き上げることができます。ビレイヤーが壁から離れるに従って引き上げ力は低下します。

25<ロワーダウンさせる際のポジションは適正か>

- テンション状態のまま壁中心付近に移動し、下降作業を行う。

26<状況にあわせたスピードで下降させているか>

- 両手で制動側のロープを持ち、清掃等にあわせた適切な速度で下降させる。
- クライマーが着地する手前で減速し、安全に着地させる。

両手で制動側ロープを持って下降作業をしないと減点対象とする。

下降速度が変わるとクライマーが恐怖を感じるため、一定速度を維持すること。